

令和4年度 大学教育再生戦略推進費
「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」
申請書

代表校名 (連携校名)	高知大学 (三重大学、和歌山県立医科大学) 3
事業名	黒潮医療人養成プロジェクト

事業の構想等

1. 事業の構想 ※事業の全体像を示した資料(ポンチ絵A4横1枚)を末尾に添付すること。

(1) 全体構想

①事業の概要等

※事業の全体概要について、取組の特色や連携のポイントを中心に記載してください。
(400字以内厳守)

連携する3校の立地は、高齢化率が高く、長い海岸線に沿って集落が点在し、県庁所在地から遠隔地の医療確保が課題となっている。さらに、南海トラフ巨大地震により甚大な津波被害が想定されている。このような地域課題を共有する3校において、過疎地域に立地する地域医療人材養成拠点病院を核に地域医療人材の養成を目指す。いずれの大学でも低学年からの体験実習をおこなう他、複数年次にまたがるアクティブラーニングコースにより継続的な学習機会を設ける。とくに南海トラフ巨大地震を想定した教育は、地域医師会、行政とも連携し充実を図る。教育講演会の合同開催、教育コンテンツの共同開発、オンラインでの学生交流など大学間交流により質の向上を目指す。6年次で地域医療人材養成拠点病院での長期クリニカルクラークシップを実施し、学生の相互派遣ができる体制を構築する。6年間を通じて多様な学びを提供し、地域医療ニーズに応える医療人を養成する。

②大学の教育理念・使命（ミッション）・人材養成目的との関係

※大学の教育理念・使命・人材養成目的・大学改革のビジョンと本事業との関係について、簡潔に記載してください。

高知大学医学部は前身の高知医科大学の建学の精神である「敬天愛人」「真理の探求」を継ぎ、地域社会が求める医療を担う、すぐれた知性、高い倫理観を具備する人間性豊かな人材を養成することを使命としている。和歌山県立医科大学は、医学及び保健看護学に関する基礎的、総合的な知識と高度で専門的な学術を教授研究するとともに、豊かな人間性と高邁な倫理観に富む資質の高い人材を育成することにより、和歌山県の医療・保健の充実を図り、もって文化の進展と人類の健康福祉の向上に寄与することを教育理念としている。三重大学医学部は、地域社会の要求や多様な医療に応じられるような意欲と適応力を養うことを目的とし、「確固たる使命感と倫理観をもつ医師を養成し、豊かな創造力と研究能力を培い、人類の健康と福祉の向上につとめ、地域及び国際社会に貢献する」ことを理念に掲げている。地域に貢献する人材を養成するということは3校に共通した使命であり、本事業の目的とも一致するものである。

③新規性・独創性

※従来の人材養成の取組との違い（新規性）や特色（独創性）、また取組の効果等を記載してください。

従来、各大学において地域に触れる医学教育が行われているが、その密度は必ずしも十分であったとは言い難い。過疎地域に立地する地域医療人材養成拠点病院に低学年から繰り返し訪れ実習をおこなうことにより地域ニーズへの理解を深めることとする。さらに、地域を意識したアクティブラーニングを複数年次にまたがり実施することにより、より深いレベルでの地域ニーズを理解する教育をおこなう。この過程において、教育コンテンツの共同開発、学生・教員の相互交流により、学びの多様性と質の向上を目指す。また、学生は6年間の集大成として地域医療人材養成拠点病院において統合的で長期のクリニカルクラークシップ(LIC;Longitudinal Integrated Clerkship)を三大学で同時期(6年次4~7月)に実施する。大学病院のように診療科別の理解ではなく、外来、入院、在宅など継続的に関わる実践的なものとし、さらに大学相互に学生を受け入れることにより、多様な学びを提供する。海外においてもLICは学生の総合的な臨床能力の向上に寄与する報告があり、高い効果が期待できる。また大学間の相互の強みを生かし、救急(災害医療を含む)、感染症、在宅医療、遠隔医療など地域現場のニーズに対応したレクチャーの合同開催、オンラインでの教育コンテンツの共同開発をおこなう。大学間連携を強化していくことにより、クリニカルクラークシップの単位互換についても検討していく計画である。

④達成目標・アウトプット・アウトカム（評価指標）

（達成目標）

※事業の実施により目指す成果や社会的効果について、現状の課題と併せ記載してください。

過疎地域に立地する地域医療人材養成拠点病院、行政、保健所、医師会等と連携し、遠隔カンファレンス、オンライン診療などICT活用を含めた教育体制を充実させ、学生が地域で学ぶ機会を質、量ともに増やす。地域ニーズを理解した医療人が育つことにより、平時の地域医療の充実が期待できる他、南海トラフ巨大地震を想定したレジリエンス強化という社会的効果が期待できる。

6年間にわたり継続的に学び、地域ニーズを深く理解した地域卒の学生が、診療科選択において、より地域ニーズの高い科を選択し、将来の医師偏在の緩和を目指す。具体的には、地域ニーズの大きいものの十分に養成の進んでいない総合診療科、救急科、感染症科を選択する地域卒卒業医師が増加することを達成目標とする。これまで三大学の地域卒卒業医師499人（臨床研修医を除く）のうち、それぞれに進んだ医師は総合診療科8人、救急科12人、感染症科0人である。事業終了後には、それぞれ20人、20人、3人となることを達成目標とする。

（アウトプットと評価指標）

※事業実施（連携校含む）によるアウトプットについて、可能な限り定量的に記載してください。

なお、下記に加え、必要な指標を適宜設定してください。

・教育プログラム・コース等の開設数と開設時期
各大学において、低学年からの地域医療人材養成拠点病院での体験実習3コース、継続的に地域課題を学ぶアクティブラーニングコース7コース、地域医療人材養成拠点病院での長期クリニカルクラークシップ3コースをおこなう。令和4年度入学生からを対象とし段階的に整備する。
また、年1回3大学合同でオンラインでのシンポジウムを開催し、教育講演会、各大学の報告、意見交換をおこなう。

・本事業で構築した教育プログラム等を履修した学生数（うち地域卒学生数）
※地域卒学生数のうち一部の者を対象にする場合は、地域卒全体に対する割合を記載すること
本事業は地域卒学生を対象とし、大学の状況に応じて、地域卒以外の学生も履修可能とする。6年間で地域卒学生の80%が少なくとも3つ以上の教育プログラムを受けることを目標とする。

・本事業で構築した教育プログラムにおいて連携する実習受入機関の延べ数
※本事業において新規に構築または発展的に改変・拡充したプログラムとの連携機関数
各大学において計8か所の地域医療人材養成拠点病院と連携する。各病院では、低学年からの体験実習、長期クリニカルクラークシップのいずれか、もしくは両方を実施する。

・オンデマンド教材等の教育コンテンツの作成数
※作成するコンテンツの概ねの分量（時間や分数）についても構想の範囲内で記載すること
30～60分程度の教育コンテンツを毎年制作する。令和4年度は6コンテンツ、令和5年度以降は毎年10コンテンツ以上を制作するものとする。

（アウトカムと評価指標）

※事業実施によるアウトカムについて、可能な限り定量的に記載してください。なお、下記に加え、必要な指標を適宜設定してください。

・地域卒・地域医療を志す学生の増加
（地域卒への入学希望者の増加、地域医療を志す学生の増加 等）
地域卒の志願者数は現状維持もしくは増加を目指す。地域卒学生の地域志向性を尺度を用いて測定し、本事業により地域医療に貢献する意識の変化を評価する。

・教育プログラム・コース等を修了後の人材のキャリア
（修了者の大学、自治体等における具体的な就職状況 等）
本事業の教育プログラム修了者は卒業後の定着率50%（地域卒卒業生にあっては100%）を目指す。地域医療支援センターを中心として、地域医療人材養成拠点病院等で活躍する医療人材となるようキャリア形成支援する。

・事業成果の発信状況
（ウェブサイト、シンポジウム、研究発表 等における具体的な発信内容と成果の各大学等への波及状況 等）
年に1回、3大学合同シンポジウムの開催、報告書の発刊をおこなう。シンポジウムには高校生の参加も呼びかけるものとする。また、事業成果は各大学のウェブサイトを通じて公開するほか、メディアにより広く一般に向けても発信する。

(2) 教育プログラム・コース → 【様式2】

2. 事業の実現可能性

(1) 運営体制

① 事業実施体制

※事業を運営する組織体制や、事業実施にかかる責任体制、事業開始に向けての準備状況等について、具体的に記載してください。

各大学において、医学部長をリーダーとした実施体制を構築する。各大学において事業の実務担当者、教務担当者、関連する講座の責任者、地域学生、等からなる連携校事業推進委員会を年に2回以上開催し、事業の実施計画の策定、進捗状況の確認、プログラム評価、目標達成のベンチマークなどをおこなう。必要に応じて、地域医療人材養成拠点病院の担当者、行政関係者も委員に加えるものとする。事業の円滑な実施のために、実務を担当する教員および事務員を各1名配置する。

事業全体としては、各大学の医学部長、実務担当者からなる事業推進委員会を年1回開催し、大学間の調整の他、年間計画の策定、予算の執行状況の確認をおこなう。

② 自己評価体制

※事業の外部評価を含む自己評価体制や、評価結果の事業計画見直しへの反映方法等について、具体的に記載してください。

目標達成に関して、毎年、各大学において自己点検評価をおこない、改善点は事業計画に反映させるものとする。また、連携大学が相互にサイトビジットをおこないピア評価をおこなうものとする。これらの自己評価を取り纏め、事業推進委員会に報告するとともに、外部委員、行政関係者を含む評価委員会の評価を受けるものとする。

③ 連携体制（連携校との連携体制や役割分担 等）

※連携校との連携目的や役割分担（各大学の強み）等連携の考え方について、具体的に記載してください。

大学間の相互の特色を生かしながら、救急（災害医療を含む）、感染症、在宅医療、遠隔医療など地域ニーズの高い分野について、アクティブラーニングコースを準備する。分野ごとに担当教員のグループを作り、各グループのリーダーを中心に、教育内容についての相互参観、学生交流の検討、教育コンテンツの共同開発を進めるものとする。また、毎年、サイトビジットで連携校を訪問し、アクティブラーニングコースの視察、地域医療人材養成拠点病院での教育体制等、ノウハウを共有する。

④連携体制（都道府県、医療機関等との連携体制や連携の特色 等）

※連携機関（都道府県等）との連携目的、連携の内容や特色、メリットに加え、人材養成体制整備等について、具体的に記載してください。

高知大学では、高知県から寄附を受け、家庭医学講座の設置、災害・救急医療支援プロジェクト、臨床研究フェローシッププログラムプロジェクトを実施しており、地域課題解決のために県行政と強固に連携している。また、県からの委託により、学内に高知地域医療支援センターを設置し、学生・卒業医師のキャリア支援をおこなっている。高知大学、地域医療支援センター、高知県で毎月、定例の会議で情報共有を行っている。また、地域医療人材養成拠点病院は、地域卒卒業医師の従事要件の対象となっており、地域卒学生の教育について大きな理解がある。このスキームで培った人的関係を発展させることで、地域医療人材養成の推進を目指す。

和歌山県立医科大学では、和歌山県からの受託事業として地域医療支援センターを運営し、地域卒学生（地域医療卒・県民医療卒）の卒前卒後教育に取り組んでいる。今回選定する地域医療人材養成拠点病院は、いずれも義務年限内の地域卒卒業医師が勤務する病院であり、先輩医師から後輩学生へのキャリア形成の方法が伝承されるような、シームレスな連携・教育体制を構築する素地が整っている。このような縦のつながりをより強化することで高いモチベーションを持った人材育成を目指す。

三重大学では、卒前医学教育を担当する医学・看護学教育センター、卒後臨床研修を担当する附属病院臨床研修部、三重県地域医療支援センター、県内研修病院の連携組織であるNPO法人MMC臨床研修センターが連携して、卒前の地域医療教育、地域卒学生・医師の進路指導を行なっている。また、医学部と三重県市町村振興協会とは、地域医療教育に関する協定を締結し、地域の医師不足問題に取り組んでいる。さらに、医学部と三重県医療保健部は、月例連絡会を開催し、地域卒学生・医師の指導と地域医療教育に関する活動を計画・実践している。

以上のように、各大学が所在地域の県、地域医療人材養成拠点病院とも強い連携体制がすでに存在しており、事業実施にあたり支援、協力が得られやすい環境にある。また、卒前からキャリア形成支援をおこなっている地域医療支援センターにも所属する教員が本事業に参加すること、地域医療人材養成拠点病院が地域卒医師の勤務義務対象であることから、卒前から卒後にかけてのシームレスなキャリア形成支援がおこなえる。

(2) 取組の継続・事業成果の普及に関する構想等

①取組の継続に関する具体的な構想

※補助期間終了後の自立的な事業の継続に関する運営予算面も含めた構想について、具体的に記載してください。

本事業は従前のものを発展・拡大させておこなうプログラム・コースが多く、事業終了後もカリキュラムとしては継続可能である。運営予算については、各大学において独自の財源だけでなく、県行政とも協議しながら継続的な確保を検討することとする。地域卒学生のキャリア支援を業務とする地域医療支援センターが各大学において本事業に関わっており、当初から事業終了後を見据えて業務の分担をおこなっていくものとする。

②事業成果の普及に関する計画

※開発した人材養成モデル等を他大学・他地域に普及させるための取組計画について、具体的に記載してください。

年1回おこなうシンポジウムにおいて、教育講演会の開催、各大学の取組についての報告、意見交換をおこなう。このシンポジウムには、地元の高校生、他大学にも広く参加を呼び掛けるものとし、地域課題の共有、教育プログラムの普及にも努める。また、毎年、事業報告書を発刊し、他大学・他地域にも送付するほか、各大学のウェブサイトにも掲載したり、メディアを通じた情報発信にも努めるものとする。

3. 実施計画

(1) 年度別の計画

令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> ① 8月 特任教授・事務補佐員の雇用 ② 9月 三重大学 体験実習 ③ 10月 令和5年度実習開始に向けての受入れ調査を開始 ④ 10月 地域医療人材養成拠点病院等の教育環境整備 ⑤ 10月 三重大学；アクティブラーニングコース（災害救急コース）を開始 ⑥ 11月 学内でのカリキュラムの調整 ⑦ 12月 各大学で連携校事業推進委員会を開催し、次年度の事業計画、目標設定、予算案を協議、各大学において教育要綱を作成し、参加学生を募集 ⑧ 1月 事業専用ホームページを公開 ⑨ 2月 事業推進委員会を開催し、次年度の事業計画、目標設定、予算案を確定、学生相互交流について協議 ⑩ 2月 高知大学；体験実習を開始 ⑪ 3月 キックオフシンポジウムの開催（高知） ⑫ 3月 評価委員会の開催 ⑬ 3月 事業報告書とりまとめ
令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> ① 4月 特任教授・事務補佐員の継続雇用 ② 4月 高知大学、三重大学；長期滞在型クリニカルクラークシップ（LIC）、すべてのアクティブラーニングコース開始 ③ 5月 サイトビジット実施 ④ 6月 各大学で連携校事業推進委員会を開催、事業進捗状況の確認、評価 ⑤ 8月 和歌山県立医科大学；長期滞在型クリニカルクラークシップ（LIC）、アクティブラーニングコース開始 ⑥ 9月 三重大学、高知大学；体験実習 ⑦ 10月 和歌山県立医科大学；体験実習 ⑧ 12月 各大学で連携校事業推進委員会を開催、事業進捗状況の確認、評価、次年度の事業計画、目標設定、予算案協議 ⑨ 1月 各大学において教育要綱作成、参加学生の募集 ⑩ 2月 事業推進委員会を開催し、次年度の事業計画、目標設定、予算案確定 ⑪ 2月 高知大学；体験実習 ⑫ 3月 合同シンポジウムの開催 ⑬ 3月 評価委員会の開催 ⑭ 3月 事業報告書とりまとめ
令和6年度	<ul style="list-style-type: none"> ① 4月 特任教授・事務補佐員の継続雇用 ② 4月 高知大学、三重大学；長期滞在型クリニカルクラークシップ（LIC）、すべてのアクティブラーニングコース開始 ③ 5月 サイトビジット実施 ④ 6月 各大学で連携校事業推進委員会を開催、事業進捗状況の確認、評価 ⑤ 8月 和歌山県立医科大学；長期滞在型クリニカルクラークシップ（LIC）、アクティブラーニングコース開始 ⑥ 9月 三重大学、高知大学；体験実習 ⑦ 10月 和歌山県立医科大学；体験実習 ⑧ 12月 各大学で連携校事業推進委員会を開催、事業進捗状況の確認、評価、次年度の事業計画、目標設定、予算案協議 ⑨ 1月 各大学において教育要綱作成、参加学生の募集 ⑩ 2月 事業推進委員会を開催し、次年度の事業計画、目標設定、予算案確定 ⑪ 2月 高知大学；体験実習 ⑫ 3月 合同シンポジウムの開催 ⑬ 3月 評価委員会の開催 ⑭ 3月 事業報告書とりまとめ

令和7年度	<ul style="list-style-type: none"> ① 4月 特任教授・事務補佐員の継続雇用 ② 4月 高知大学、三重大学；長期滞在型クリニカルクラークシップ（LIC）、すべてのアクティブラーニングコース開始 ③ 5月 サイトビジット実施 ④ 6月 各大学で連携校事業推進委員会を開催、事業進捗状況の確認、評価 ⑤ 8月 和歌山県立医科大学；長期滞在型クリニカルクラークシップ（LIC）、アクティブラーニングコース開始 ⑥ 9月 三重大学、高知大学；体験実習 ⑦ 10月 和歌山県立医科大学；体験実習 ⑧ 12月 各大学で連携校事業推進委員会を開催、事業進捗状況の確認、評価、次年度の事業計画、目標設定、予算案協議 ⑨ 1月 各大学において教育要綱作成、参加学生の募集 ⑩ 2月 事業推進委員会を開催し、次年度の事業計画、目標設定、予算案確定 ⑪ 2月 高知大学；体験実習 ⑫ 3月 合同シンポジウムの開催 ⑬ 3月 評価委員会の開催 ⑭ 3月 事業報告書とりまとめ
令和8年度	<ul style="list-style-type: none"> ① 4月 特任教授・事務補佐員の継続雇用 ② 4月 高知大学、三重大学；長期滞在型クリニカルクラークシップ（LIC）、すべてのアクティブラーニングコース開始 ③ 5月 サイトビジット実施 ④ 6月 各大学で連携校事業推進委員会を開催、事業進捗状況の確認、評価 ⑤ 8月 和歌山県立医科大学；長期滞在型クリニカルクラークシップ（LIC）、アクティブラーニングコース開始 ⑥ 9月 三重大学、高知大学；体験実習 ⑦ 10月 和歌山県立医科大学；体験実習 ⑧ 12月 各大学で連携校事業推進委員会を開催、事業進捗状況の確認、評価、次年度の事業計画、目標設定、予算案協議 ⑨ 1月 各大学において教育要綱作成、参加学生の募集 ⑩ 2月 事業推進委員会を開催し、次年度の事業計画、目標設定、予算案確定 ⑪ 2月 高知大学；体験実習 ⑫ 3月 合同シンポジウムの開催 ⑬ 3月 評価委員会の開催 ⑭ 3月 事業報告書とりまとめ
令和9年度	<ul style="list-style-type: none"> ① 4月 特任教授・事務補佐員の継続雇用 ② 4月 高知大学、三重大学；長期滞在型クリニカルクラークシップ（LIC）、すべてのアクティブラーニングコース開始 ③ 5月 サイトビジット実施 ④ 6月 各大学で連携校事業推進委員会を開催、事業進捗状況の確認、評価 ⑤ 8月 和歌山県立医科大学；長期滞在型クリニカルクラークシップ（LIC）、アクティブラーニングコース開始 ⑥ 9月 三重大学、高知大学；体験実習 ⑦ 10月 和歌山県立医科大学；体験実習 ⑧ 12月 各大学で連携校事業推進委員会を開催、事業進捗状況の確認、評価、次年度の事業計画、目標設定、予算案協議 ⑨ 1月 各大学において教育要綱作成、参加学生の募集 ⑩ 2月 事業推進委員会を開催し、次年度の事業計画、目標設定、予算案確定 ⑪ 2月 高知大学；体験実習 ⑫ 3月 合同シンポジウムの開催 ⑬ 3月 評価委員会の開催 ⑭ 3月 事業報告書とりまとめ

令和10年度	<ul style="list-style-type: none"> ① 4月 特任教授・事務補佐員の継続雇用 ② 4月 高知大学、三重大学；長期滞在型クリニカルクラークシップ（LIC）、すべてのアクティブラーニングコース開始 ③ 5月 サイトビジット実施 ④ 6月 各大学で連携校事業推進委員会を開催、事業進捗状況の確認、評価 ⑤ 8月 和歌山県立医科大学；長期滞在型クリニカルクラークシップ（LIC）、アクティブラーニングコース開始 ⑥ 9月 三重大学、高知大学；体験実習 ⑦ 10月 和歌山県立医科大学；体験実習 ⑧ 12月 各大学で連携校事業推進委員会を開催、事業進捗状況の確認、評価、次年度の事業計画、目標設定、予算案協議 ⑨ 1月 各大学において教育要綱作成、参加学生の募集 ⑩ 2月 事業推進委員会を開催し、次年度の事業計画、目標設定、予算案確定 ⑪ 2月 高知大学；体験実習 ⑫ 3月 合同シンポジウムの開催 ⑬ 3月 評価委員会の開催 ⑭ 3月 事業報告書とりまとめ
--------	--

教育プログラム・コースの概要

大学名等	高知大学								
教育プログラム・コース名	体験実習								
取組む分野	地域医療一般								
対象者	医学部生（地域枠学生及びその他学生）								
対象年次	1年次～3年次								
養成すべき人材像	地域医療機関で求められる医師像を理解する								
科目等詳細	<p><実習型科目></p> <ul style="list-style-type: none"> ・従来、キャリア教育の一環として大学病院内で各診療科に分かれておこなってきた臨床体験実習Ⅰ（必修2単位、1年次、2月）、臨床体験実習Ⅱ（必修2単位、2年次、9月）、臨床体験実習Ⅲ（必修2単位、3年次、2月）を地域医療人材養成拠点病院でも選択可能とする ・各年次で8日間の実習をおこなう ・オリエンテーション1日、病院等で実習6日、報告会1日の構成とする ・各年次で20人を対象とする。学生は地域枠に限定せず、一般枠学生も選択可とする ・地域医療人材養成拠点病院での医療の実際を体験するため、在籍する地域枠卒業医師（臨床研修医、専攻医）とペアとなり直接指導を受けることとする。実習は、救急受診、入院院支援、在宅医療におけるICTシステム活用など地域ニーズを理解できる内容を含めるものとする ・ワークショップ、地域踏破、など、病院以外の実習プログラムを含める 								
教育内容の特色等（新規性・独創性）	<ul style="list-style-type: none"> ・従来、大学病院内のみの実施であったが、地域医療人材養成拠点病院でも選択可能とする ・低学年から地域医療機関での医療の実際を経験し、そこで求められる医師像を理解できる ・地域枠卒業医師からマンツーマンでの指導を受けることにより、自身の卒業後の医師像を描くことができる ・連携大学教員による視察を受け入れ、相互の授業改善につなげる 								
指導体制	担当教員とともに現地にバスで赴き実習をおこなう。地域枠卒業医師からマンツーマン指導を受ける。								
開始時期	令和5年2月								
養成目標人数	対象者 (年次ごとに記載)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	計
	1年次	20	20	20	20	20	20	20	140
	2年次		20	20	20	20	20	20	120
	3年次			20	20	20	20	20	100
	4年次								0
	5年次								0
	6年次								0
	計	20	40	60	60	60	60	60	360

※教育プログラム・コースごとに作成して下さい。
 ※各欄の行の高さは自由に変えて結構です。横幅は変えないでください。

教育プログラム・コースの概要

大学名等	和歌山県立医科大学								
教育プログラム・コース名	体験実習								
取組む分野	地域医療一般								
対象者	医学部生（地域枠学生及びその他学生）								
対象年次	2年次～3年次								
養成すべき人材像	地域医療機関で求められる医師像を理解する								
科目等詳細	<p><実習型科目></p> <ul style="list-style-type: none"> ・従来、キャリア教育の一環として附属病院内で各診療科に分かれておこなってきた病棟実習Ⅰ（必修、1単位、2年次10月）、病棟実習Ⅱ（必修、1単位、3年次9月）を地域医療人材養成拠点病院等でも実施可能とする。 ・オリエンテーションは従来と同一の枠組みで行う。 ・2年次～3年次で2日間ずつの実習をおこなう。 ・各年次で6人を対象とする。学生は地域枠が主であるが一般枠学生も選択可とする。 ・地域医療人材養成拠点病院等での医療の実際を体験するため、在籍する地域枠卒業医師とペアとなり直接指導を受けることとする。1病院2名を受け入れ、6病院12名を対象として想定する。 ・また地域医療におけるコメディカルの役割、チーム医療についての理解を深め、医療の専門職としての役割の自覚と責任を感じる機会とし、モラル・人間性も身につける。 ・実習に際しては、実際の指導にあたる地域枠卒業医師と直接連絡を取り合い、交通も学生自身が手配するなど、社会性の涵養もねらいとする。 ・公共交通機関を利用することで、地域の置かれている環境、都市部との位置関係を実感する機会とする。 ・院内感染対策・衛生面での基本的な知識と実践を学ぶ。 								
教育内容の特色等（新規性・独創性）	<ul style="list-style-type: none"> ・従来、附属病院内のみの実施であったが、地域医療人材養成拠点病院等でも選択可能とする ・低学年から地域医療機関での医療の実際を経験し、そこで求められる医師像を理解できる ・連携大学教員による視察を受け入れ、相互の授業改善につなげる 								
指導体制	現地に公共交通機関で赴き実習をおこなう。地域枠卒業医師からマンツーマン指導を受ける。担当教員を選任し、実習先へのサイトビジットを行う。								
開始時期	令和5年10月（令和5年度は2年次のみ、令和6年度から2年次・3年次に順次拡大）								
養成目標人数	対象者 (年次ごとに記載)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	計
	1年次								0
	2年次		6	6	6	6	6	6	36
	3年次			6	6	6	6	6	30
	4年次								0
	5年次								0
	6年次								0
	計	0	6	12	12	12	12	12	66

※教育プログラム・コースごとに作成して下さい。
 ※各欄の行の高さは自由に覚えて結構です。横幅は変えないでください。

教育プログラム・コースの概要

大学名等	三重大学								
教育プログラム・コース名	体験実習								
取組む分野	地域医療一般								
対象者	医学部医学科学生および看護学科学学生								
対象年次	1年次前期～2年次後期								
養成すべき人材像	地域保健医療福祉に必要な知識・技能・態度の基礎を修得した医師・保健師・看護師								
科目等詳細	<p><実習型科目></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業科目「医療と社会」（必修、9単位、1、2年次）での実習である地域基盤型保健医療教育は、地域枠学生に望まれる地域でのon-the-job-trainingとして計画した授業科目であるが、医学科第1-2学年学生全員を対象とする必修科目として拡充し、実施する。 ・令和4年度以降、看護学科との合同授業とし、多職種連携教育へと進展させることを計画する。 ・医学教育モデル・コア・カリキュラムA-7-1)地域医療への貢献、G-4-3)地域医療実習の項目に相当する授業である。また、社会医学・行動科学を学習する授業である。 ・WHOが提唱する健康の社会的決定要因（Social Determinants of Health, SDH）を理解することを学習目標の一つに掲げる。 ・1グループを4-5名（看護学科合同授業では7-8名）の学生で構成する。各グループが県内全29市町村のうちの1市町村を2年間継続して担当し、1年次は地域調査・地域診断を行い、2年次には地域診断の結果に基づいて地域貢献活動を実施する。 ・準備学習、現地での活動、振り返りの過程を通じて、地域医療への理解を深めるとともに、地域社会からの医学部学生への期待を意識させる。 ・学習の形式は、全体講義、自己学習、グループ学習（教員・市町村担当者からの指導を含む）、実習により構成する。 ・本授業と連携する講義「国際保健と地域医療」（必修、2単位 1年次）では、令和5年度後期から開始、連携大学から各1名、連携病院から各1名の講師を招聘し、授業内容の充実を図る。 								
教育内容の特色等（新規性・独創性）	<ul style="list-style-type: none"> ・大学、県、市町村が協力して、授業を実施する体制を整備している ・医学科、看護学科の合同による多職種連携教育への発展を計画している ・県下全域で実施することで、学生が、それぞれの市町の医療体制や地勢、想定される災害等について学ぶ機会があり、災害発生時には、本実習に参加した医師・学生が、被災市町村の支援に赴く動機付けになることが期待される ・本授業の後も、3年次の地域医療機関見学実習、4-6年次の地域医療機関での臨床実習で継続して地域社会で学ぶ機会が準備されている ・連携大学教員による視察を受け入れ、相互の授業改善につなげる 								
指導体制	医学・看護学教育センター、総合診療部、看護学科の教員を中心に各学生グループに指導教員を配置する。学内経費で、本授業を管理運営するコーディネーターを雇用する。各市町村では、保健関連部門職員が指導者として指名される。								
開始時期	令和4年9月								
養成目標人数	対象者 (年次ごとに記載)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	計
	1年次	205	205	205	205	205	205	205	1,435
	2年次	125	205	205	205	205	205	205	1,355
	3年次								
	4年次								
	5年次								
	6年次								
	計	330	410	410	410	410	410	410	2,790

※教育プログラム・コースごとに作成して下さい。

※各欄の行の高さは自由に変えて結構です。横幅は変えないでください。

教育プログラム・コースの概要

大学名等	高知大学								
教育プログラム・コース名	アクティブラーニングコース（医療DXコース）								
取組む分野	遠隔医療、ICT利活用								
対象者	医学部生（地域卒学生及びその他学生）								
対象年次	2年次～4年次								
養成すべき人材像	地域医療の課題に対するICTの効果的な活用方法を身につける								
科目等詳細	<p><実習型科目></p> <ul style="list-style-type: none"> ・従来、研究マインド醸成のために実施してきた先端医療学コースⅡ（選択必修3単位、2年次通年）、先端医療学コースⅢ（選択必修3単位、3年次通年）、先端医療学コースⅣ（選択必修3単位、4年次通年）に新たに「医療DXコース」を設ける ・学年5人程度の学生を募集する。 ・コースは3年間継続する。半日×2回/週の学習時間を確保する。 ・遠隔医療の歴史とICT技術の進歩について学修する。 ・県・市町村行政の協力のもと医療ICT政策について学習する。 ・ICTを活用している学外の医療・介護事業所の協力のもと、ICTを活用した遠隔医療、医療連携、多職種協働の現状と課題について学習する。 ・へき地・中山間の地域課題を理解し、効果的なICT活用方法を学習する。 ・高知大学医学部で運用しているICTを活用した情報連携システムを実際に操作し、EHR（Electronic Health Record）、PHR（Personal Health Record）を活用した地域支援について学習する。 ・EHR、PHRデータを分析することにより、地域医療・介護の課題を抽出し、ICTシステムの効果的な活用方法について検討を行う。分析結果を用いて、3年間で少なくとも1回以上の学会発表もしくは論文執筆をおこなうこととする。 ・三大学が連携して、教員及び学生の相互訪問による交流を行い、それぞれの県に特有の地域医療の問題点、共通の問題点を共有する。 ・それぞれの大学で実施する研究発表会などを対面あるいはオンラインで参加できるプログラムを導入する。 								
教育内容の特色等（新規性・独創性）	<p>選択必修科目となっている先端医療学コースに新たに「医療DXコース」を設ける。</p> <p>地方の共通課題である人口減少・過疎地域における医療・介護提供体制の確保について、ICTの活用方法を地方の現場スタッフとともに検討し学修する。</p> <p>EHR、PHRデータを分析することによる課題の抽出や、研究発表を行う。</p>								
指導体制	学内の指導教員の他、学外施設の指導者が継続的に指導をおこなう								
開始時期	令和5年4月								
養成目標人数	対象者 (年次ごとに記載)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	計
	1年次								0
	2年次		5	5	5	5	5	5	30
	3年次			5	5	5	5	5	25
	4年次				5	5	5	5	20
	5年次								0
	6年次								0
	計	0	5	10	15	15	15	15	75

※教育プログラム・コースごとに作成して下さい。

※各欄の行の高さは自由に変えて結構です。横幅は変えないでください。

教育プログラム・コースの概要

大学名等	高知大学								
教育プログラム・コース名	アクティブラーニングコース（地域総合診療コース）								
取組む分野	総合診療								
対象者	医学部生（地域枠学生及びその他学生）								
対象年次	2年次～4年次								
養成すべき人材像	地域の課題について深く理解し、能動的に分析、介入のできる素養を身に着ける								
科目等詳細	<p><実習型科目></p> <ul style="list-style-type: none"> ・従来、研究マインド醸成のために実施してきた先端医療学コースⅡ（選択必修3単位、2年次通年）、先端医療学コースⅢ（選択必修3単位、3年次通年）、先端医療学コースⅣ（選択必修3単位、4年次通年）に新たに「医療DXコース」を設ける ・学年5人程度の学生を募集する。地域枠に限定しないが、応募者が多い場合は地域枠学生を優先する。 ・コースは3年間継続する。半日×2回/週の学習時間を確保し、アクティブラーニング（PBL、TBL、CBD等）による地域医療の課題のグループワーク、オンデマンド教材による学習をおこなう。オンデマンド教材は、連携大学と協働で開発する。 ・現場の学習課題を認識するために、プライマリ・ケア、在宅医療、救急医療、などの学外施設ともマッチングし、年間を通じ継続的な実習をおこなう。 ・現場の課題を抽出し、臨床疫学研究をおこない、3年間で少なくとも1回以上の学会発表もしくは論文執筆をおこなうこととする。 ・三大学が連携して、教員及び学生の相互訪問による交流を行い、それぞれの県に特有の地域医療の問題点、共通の問題点を共有する。 ・それぞれの大学で実施する研究発表会などを対面あるいはオンラインで参加できるプログラムを導入する。 								
教育内容の特色等（新規性・独創性）	選択必修科目となっている先端医療学コースに新たに「地域総合診療コース」を設けるもの。従来のコースは研究室での実験などが中心であったが、地域の課題に目を向けることで課題解決型のアクティブラーニングをおこなう								
指導体制	学内の指導教員の他、学外施設の指導者が継続的に指導をおこなう								
開始時期	令和5年4月								
養成目標人数	対象者 (年次ごとに記載)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	計
	1年次								0
	2年次		5	5	5	5	5	5	30
	3年次			5	5	5	5	5	25
	4年次				5	5	5	5	20
	5年次								0
	6年次								0
	計	0	5	10	15	15	15	15	75

※教育プログラム・コースごとに作成して下さい。
 ※各欄の行の高さは自由に変えて結構です。横幅は変えないでください。

教育プログラム・コースの概要

大学名等	高知大学								
教育プログラム・コース名	アクティブラーニングコース（災害救急コース）								
取組む分野	災害救急・感染症								
対象者	医学部生（地域枠学生及びその他学生）								
対象年次	2年次～4年次、6年次（連携校からの受入れ）								
養成すべき人材像	南海トラフ地震に備え災害医療の基本を理解し、多職種連携による災害救護や避難所における災害関連死の予防と感染症流行時の対策ができる人材を育成する								
科目等詳細	<p><実習型科目></p> <ul style="list-style-type: none"> ・従来、研究マインド醸成のために実施してきた先端医療学コースⅠ（選択必修3単位、2年次通年）、先端医療学コースⅡ（選択必修3単位、3年次通年）、先端医療学コースⅢ（選択必修3単位、4年次通年）に新たに「災害救急コース」を設ける ・学年10人程度の学生を募集する。地域枠に限定しないが、応募者が多い場合は地域枠学生を優先する。連携校のアクティブラーニングコース6年次の学生10人を受け入れ、実習機会を創出する。また連携大学とは必要に応じオンライン講義を行い互いの問題点を討議する ・コースは3年間継続する。半日×2回/週の学習時間を確保し、学内の講義以外に学外の施設への見学実習をおこなう ・医学科看護学科の合同授業を行い、救護所設営訓練など多職種連携教育へ発展させる ・災害時の診断と応急手当、避難所の設置・運営、災害関連死予防について考え、感染症流行時の避難所運営の工夫を考える ・連携大学との共同オンライン講義、現地集合した実習（2年生から受け入れ実習も検討）を計画する。学年は問わない。オンライン講義は3大学で共有できる部分は共有する。各県の災害時の取り組みの工夫を共有する実習は高知大学では各地域での津波浸水予測状況を調査し、津波避難タワー、津波避難シェルターなどを見学し実際に一泊して体験学習を行う ・現場の課題を抽出し、臨床疫学研究をおこない、3年間で少なくとも1回以上の学会発表もしくは論文執筆をおこなうこととする 								
教育内容の特色等（新規性・独創性）	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特性に合わせた災害医療、救急医療、感染症診療・感染症制御を学ぶ授業が提供される ・e-learning やVR機器など新しい教育ツールが活用される ・連携大学との学生交換やE-learnigコンテンツの共有化などの連携教育が導入し、単位互換を目指す。感染症流行時の避難所の運営について学修する ・講師には行政職員も加わってもらう。各県の災害時の被災状況を学習し必要な医療活動を考える。行政機関の役割を理解し、現場重視の学習を行う 								
指導体制	災害・救急医療学講座医師、感染管理部職員、保健所職員、行政職員、日赤、DMAT隊員、消防職員など								
開始時期	令和5年4月								
養成目標人数	対象者 (年次ごとに記載)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	計
	1年次								0
	2年次		10	10	10	10	10	10	60
	3年次			10	10	10	10	10	50
	4年次				10	10	10	10	40
	5年次								0
	6年次			10	10	10	10	10	50
	計	0	10	30	40	40	40	40	200

※教育プログラム・コースごとに作成して下さい。
 ※各欄の行の高さは自由に変えて結構です。横幅は変えないでください。

教育プログラム・コースの概要

大学名等	和歌山県立医科大学								
教育プログラム・コース名	アクティブラーニングコース（地域総合診療コース）								
取組む分野	地域医療・総合診療								
対象者	医学部生（地域枠学生及びその他学生）								
対象年次	1年次～5年次（夏期休業期間および空きコマ）								
養成すべき人材像	総合的な診療能力を身につける								
科目等詳細	<p><実習型科目></p> <ul style="list-style-type: none"> ・従来、地域枠学生に対する卒前教育の一環として、保健所および地域枠卒業医師の勤務する病院・診療所等で夏期休業期間を利用した、カリキュラム外の夏季実習を行ってきた。 ・従来2日間のみで実習期間が短く、得られる経験としては不十分であったため期間を延長し、1年次～5年次で各2週間の実習をおこなう。 ・学年5人程度の学生を募集する。地域枠学生が主であるが、一般枠学生も選択可とする。 ・地域医療の課題についての事前学習として、アクティブラーニング（問題基盤型学習（PBL）、チーム基盤型学習法（TBL）、Case-based Discussion（CBD）等）、グループワーク、オンデマンド教材により集中的に習得する。オンデマンド教材は、3大学協働で開発する。 ・実習は、救急受診、入院支援、地域包括ケア、在宅医療におけるICTシステム活用など、地域ニーズを理解できる内容を含めるものとする。 ・現場の学習課題を認識するために、プライマリ・ケア、在宅医療、ターミナルケア、看取り、救急医療、保健行政、など学生の希望に合わせ地域医療人材養成拠点病院等・保健所とマッチングし、実習をおこなう。 ・地域医療人材養成拠点病院等の医師、保健所医師を指導者として選任し、学内の指導教員と協働で講義・実習等をおこなう。 ・実習期間中に地域医療現場の課題を抽出し、臨床疫学研究や地域への介入の準備をおこなう。 ・そのため、実習期間終了後も、地域医療人材養成拠点病院等、保健所への訪問をフレキシブルに行えるよう対応し、日本プライマリ・ケア連合学会など関連学会の学会もしくは研究会での発表を1回以上おこなうこととする。 ・学習内容や成果についてのレポートを提出し、評価する。 ・プログラムの継続性担保の観点から次年次も同一施設での実習を推奨する。そのため、次年次の対象学生の募集に際しては、既に本プログラムの対象となっている学生を優先する。 ・三大学が連携して、教員及び学生を相互に受け入れし、それぞれの県に特有の地域医療の問題点、共通の問題点を共有する。 ・それぞれの大学で実施する研究発表会などを対面あるいはオンラインで参加できるプログラムを導入する。 								
教育内容の特色等（新規性・独創性）	<p>地域の課題に目を向けるような課題解決型のアクティブラーニングをおこなう。</p> <p>地域医療・総合診療に関する継続的・集中的な講義や実習によって、地域医療マインドを持つ学生の意欲の維持、さらなる地域医療マインドの涵養をおこなう。</p> <p>担当教員を専任し、実習先へのサイトビジットを行う。</p>								
指導体制	学内の指導教員の他、地域医療人材養成拠点病院等、保健所の指導者が指導をおこなう								
開始時期	令和5年度（令和5年度は1年次のみ、令和6年度から順次拡大）								
養成目標人数	対象者 (年次ごとに記載)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	計
	1年次		5	5	5	5	5	5	30
	2年次			5	5	5	5	5	25
	3年次				5	5	5	5	20
	4年次					5	5	5	15
	5年次						5	5	10
	6年次								0
	計	0	5	10	15	20	25	25	100

※教育プログラム・コースごとに作成して下さい。
 ※各欄の行の高さは自由に変えて結構です。横幅は変えないでください。

教育プログラム・コースの概要

大学名等	和歌山県立医科大学								
教育プログラム・コース名	アクティブラーニングコース（災害救急コース）								
取組む分野	災害救急・感染症								
対象者	医学部生（地域枠学生及びその他学生）								
対象年次	3年次								
養成すべき人材像	南海トラフ地震に備え災害医療の基本を理解し、あらゆる傷病者に対して迅速な診断と初期治療が可能であり、かつ新興・再興感染症流行時の診療・感染制御に対応出来る。								
科目等詳細	<p>臨床医学系講義「救急医学」（3年次）の中に、災害医療関連の講義1コマを組み込むこととする。さらに、夏期休業中に新たに課外実習3コマを実施することとする。</p> <p><感染症></p> <ul style="list-style-type: none"> ・e-Learning教材を活用して感染症疫学・公衆衛生を学ぶ。 <p><災害・救急医療></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年10人程度の学生を募集する。地域枠学生が主であるが、一般枠学生も選択可とする。 ・少なくとも講義1コマ、実習3コマの学習時間を確保する。 <p>講義＝災害関連医療の総論 実習＝①津波関連施設の見学・体験、②避難所の設置・運営・応急手当、③避難所に関わる予防医学（感染症を含めて）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所での日常的な感染対策に加えて感染症流行時の工夫を考える。 ・各県の災害時の取り組みの工夫を共有する ・現場の課題を抽出し、レポートを提出する。 								
教育内容の特色等（新規性・独創性）	災害医療の基本を講義で習得し、実習にて災害医療現場を見学・シミュレーションなどを通して体感して実践的知識を身につける。各県の災害時の被災状況を学習し必要な医療活動を考える。新型コロナウイルス等、昨今の状況もふまえて避難所での感染対策について習得する。行政機関の役割を理解し、現場重視の学習を行う。								
指導体制	附属病院救急・集中治療部医師、感染制御部医師を講師とし、関連病院勤務のDMAT隊員とも連携する。連携校のプログラムも活用する。								
開始時期	令和5年4月								
養成目標人数	対象者 (年次ごとに記載)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	計
	1年次								0
	2年次								0
	3年次		10	10	10	10	10	10	60
	4年次								0
	5年次								0
	6年次								0
	計	0	10	10	10	10	10	10	60

※教育プログラム・コースごとに作成して下さい。
※各欄の行の高さは自由に変えて結構です。横幅は変えないでください。

教育プログラム・コースの概要

大学名等	三重大学								
教育プログラム・コース名	アクティブラーニングコース（地域総合診療コース）								
取組む分野	総合診療								
対象者	医学部医学科学生（地域枠学生及びその他学生）								
対象年次	1年次～6年次								
養成すべき人材像	地域医療の課題について深く理解し、能動的に分析、介入のできる研究心・能力を持つ医師								
科目等詳細	<p><実習型科目></p> <ul style="list-style-type: none"> ・医学部の正規のカリキュラム（新医学専攻コース・研究室研修）の枠組みで、特に総合診療医の養成を目的として、研究活動と能動的学習を拡充したコースを設ける ・新医学専攻コース（選択、1単位、1～6年次） 6年間継続して研究活動等に参加する ・研究室研修（必修、7単位、3年次後期、4年次前期）1年間研究室に配属され研究活動をおこなう <ul style="list-style-type: none"> ・1学年8人程度の学生を募集する。地域枠学生に限定しないが、応募者が多い場合は地域枠学生を優先する。 ・3年次後期、4年次前期では、週3日、それ以外の期間は、週1日の指導をおこなう。期間を通じて、担当教員が学生1～2名を担当し、地域に関連した臨床疫学的研究を行い、地域医療・総合診療への理解を深める。 ・研究テーマは、プライマリケアにおける引きこもり患者の受療・地域における外国人医療・地域基盤型医学教育に関する研究・地域における防災など、地域に関連する課題を抽出してそれに対して解決法を考察する内容とする。 ・6年間で少なくとも1回以上の学会発表もしくは論文執筆という形でアウトプットを行う。4年次に学内での成果発表会で発表を行う。 ・三大学が連携して、教員及び学生を相互に受け入れし、それぞれの県に特有の地域医療の問題点、共通の問題点を共有する。 ・それぞれの大学で実施する研究発表会などを対面あるいはオンラインで参加できるプログラムを導入する。 								
教育内容の特色等（新規性・独創性）	<ul style="list-style-type: none"> ・研究心を持って地域医療を科学的にとらえ、その知見を地域医療の実践に活かす能力を養成するプログラムである。 ・医師不足地域にある地域医療人材養成拠点病院と総合診療部とが協力して実施するプログラムである。 ・長い海岸線を有するという地理的特徴を共有する3大学が連携することで、それぞれが実施する総合診療医育成のための教育プログラムの持続的改善に取り組むプログラムである。 								
指導体制	総合診療部の教員が中心となり地域の指導医とも協力しながら行う。								
開始時期	令和5年度								
養成目標人数	対象者 (年次ごとに記載)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	計
	1年次		8	8	8	8	8	8	48
	2年次		8	8	8	8	8	8	48
	3年次		8	8	8	8	8	8	48
	4年次			8	8	8	8	8	40
	5年次				8	8	8	8	32
	6年次					8	8	8	24
	計	0	24	32	40	48	48	48	240

※教育プログラム・コースごとに作成して下さい。
 ※各欄の行の高さは自由に変えて結構です。横幅は変えないでください。

教育プログラム・コースの概要

大学名等	三重大学								
教育プログラム・コース名	アクティブラーニングコース（災害救急コース）								
取組む分野	救急医療・感染症								
対象者	医学科学生（すべての学生）								
対象年次	3年次～6年次								
養成すべき人材像	災害時の救急医療、新興・再興感染症流行時の感染症診療・感染症制御に対応できる医師								
科目等詳細	<p>既存のカリキュラムであるPBLチュートリアル（必修、15単位、3年次後期～4年次後期）、臨床実習（臨床実習前集中講義を含む、必修、62単位、4年次後期～6年次前期）を有機的に組み合わせ、災害医療、新興感染症への対応の教育を拡充するもの</p> <p><演習型科目></p> <ul style="list-style-type: none"> 既に第3-4学年カリキュラムの中心をなすPBLチュートリアル教育において、感染症教育の強化を図る。具体的には、感染症ユニットでの症例シナリオに新興感染症事例を導入し、公衆衛生的見地からの学習を誘導する。 感染症ユニット期間中に、中部国際空港検疫施設での終日の実習を組み込むことを計画する（検疫所受入れ体制により参加定員あり。20名程度、希望者のみ選択制。10月実施。）。 <p><講義型科目></p> <ul style="list-style-type: none"> 臨床実習前集中講義において感染症疫学シリーズを設け、国立感染症研究所疫学センター研究者による講義、感染症疫学・公衆衛生に関するe-learning教材を活用した自己学習とオンラインでの予防接種自己学習プログラム（試験的導入を終えた段階）を活用した教育の強化を図る。 <p><実習型科目></p> <ul style="list-style-type: none"> 第4-5学年次の全科ローテーション型臨床実習・救急部ローテーションにおいて、感染症患者に対する救急対応をAR（Augmented reality 拡張現実）機器（既に導入済み）を活用して学習する教育プログラムを開発する。これにより直接的な参加が難しい救急医療を学修する機会を確保する。 大災害の発生、新興感染症パンデミック時の災害の発生を想定した附属病院での災害訓練に、臨床実習の一部として学生が参加し、災害時救急医療を学修する機会とする。 第6学年選択型臨床実習では、連携大学間で学生を相互に受け入れし、感染症・災害医療・救急医療の実習機会を創出する。 								
教育内容の特色等（新規性・独創性）	<ul style="list-style-type: none"> 地域の特性に合わせた災害医療、救急医療、感染症診療・感染症制御を学ぶ授業が提供される e-learning やVR機器など新しい教育ツールが活用される 連携大学との学生交換やE-learnigコンテンツの共有化などの連携教育が導入し、単位互換を目指す 今年度以降計画している公衆衛生人材養成を目的とする学内センターの設置と修士課程公衆衛生コースの強化と連動して、感染症に強い公衆衛生人材の育成に連動する教育である 								
指導体制	救命救急・総合集中治療センター教員、感染症内科・感染制御部教員、附属病院災害対策推進・教育センター教職員、消防職員、DMAT隊員								
開始時期	令和4年10月（3大学間での学生相互受け入れは、令和5年4月）								
養成目標人数	対象者 (年次ごとに記載)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	計
	1年次								
	2年次								
	3年次	125	125	125	125	125	125	125	875
	4年次	125	125	125	125	125	125	125	875
	5年次	125	125	125	125	125	125	125	875
	6年次	0	10	10	10	10	10	10	60
	計	375	385	385	385	385	385	385	2,685

※教育プログラム・コースごとに作成して下さい。
 ※各欄の行の高さは自由に変えて結構です。横幅は変えないでください。

教育プログラム・コースの概要

大学名等	高知大学								
教育プログラム・コース名	長期滞在型クリニカルクラークシップ								
取組む分野	総合診療、救急、感染症								
対象者	医学部生（地域枠学生及びその他学生）								
対象年次	6年次								
養成すべき人材像	総合的な診療能力を身に着ける								
科目等詳細	<p><実習型科目></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域枠学生に限定しないが、希望者が多い場合は地域枠学生を優先する ・地域ニーズに応えられる総合的な臨床能力を身に着けるために、地域医療人材養成拠点医療機関において長期滞在型のクリニカルクラークシップ（LIC ;Longitudinal Integrated Clerkship）を実施する ・少なくとも4週間（推奨8週間）の実習期間でStudent Doctorとして、外来・救急での初期対応から、入院診療、退院調整、等、一人の患者に継続的に関わる内容とする ・地域に滞在している間も、救急、感染症などについて、オンラインでの指導、オンデマンド教材の視聴などにより理解を深めることとする ・担当患者に関する入退院支援～在宅療養までICTシステムを活用した多職種協働（情報共有、カンファレンス等）に参加する ・大学病院・地域医療人材養成拠点病院との遠隔カンファレンス、地域医療人材拠点病院・診療所間のオンライン診療（Doctor to Doctor）、過疎地域の通院困難者を対象としたオンライン診療（Doctor to Patient with Nurse）などICTを活用した診療に参加、見学をする ・毎週、定期的に振り返りをおこなう。大学教員はオンラインで参加する 								
教育内容の特色等（新規性・独創性）	<ul style="list-style-type: none"> ・従来実施してきたクリニカルクラークシップよりも長期の実習とすることにより、学生が診療チームの一員として行動し、総合的な臨床能力を獲得することができるようにする ・連携大学間で学生を相互に受け入れし、実習をおこなう体制を構築する ・三大学の教員が共同でLIC参加学生に対してオンライン指導を行うなどの機会を設ける ・以上により、LIC参加学生が他県の状況も理解し、広い視野を獲得する ・LICを実施している期間に、三大学の教員が相互にサイトビジットを行い、それぞれの大学でのLICの継続的な改善に取り組む 								
指導体制	地域医療人材養成拠点病院の医師（指導医、専攻医、研修医）が実習期間を通じて指導する。大学教員は、オンラインで指導する。								
開始時期	令和5年4月								
養成目標人数	対象者 (年次ごとに記載)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	計
	1年次								0
	2年次								0
	3年次								0
	4年次								0
	5年次								0
	6年次		12	12	12	12	12	12	72
	計	0	12	12	12	12	12	12	72

※教育プログラム・コースごとに作成して下さい。
 ※各欄の行の高さは自由に変えて結構です。横幅は変えないでください。

教育プログラム・コースの概要

大学名等	和歌山県立医科大学								
教育プログラム・コース名	長期滞在型クリニカルクラークシップ								
取組む分野	地域医療・総合診療・救急・感染症								
対象者	医学部生（地域枠学生及びその他学生）								
対象年次	6年次								
養成すべき人材像	総合的な診療能力を身につける								
科目等詳細	<p><実習型科目></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域枠学生が主であるが、一般枠学生も選択可とする。 ・地域ニーズに応えられる総合的な臨床能力を身につけるために、地域医療人材養成拠点医療機関等において長期滞在型のクリニカルクラークシップ（LIC;Longitudinal Integrated Clerkship）を実施する。 ・少なくとも4週間の実習期間でStudent Doctorとして、外来・救急での初期対応から、入院診療、退院調整、等、一人の患者に継続的に関わる内容とする。1病院3名を受け入れ、5病院15名を対象として想定する。 ・地域に滞在している間も、救急、感染症などについて、オンラインでの指導、オンデマンド教材の視聴などにより理解を深めることとする。 ・担当患者に関する入退院支援～在宅療養までICTシステムを活用した多職種協働（情報共有、カンファレンス等）に参加する。 ・大学病院・地域医療人材養成拠点病院等との遠隔カンファレンス、地域医療人材拠点病院・診療所間のオンライン診療（Doctor to Doctor）、過疎地域の通院困難者を対象としたオンライン診療（Doctor to Patient with Nurse）などICTを活用した診療に参加、見学をする ・毎週、定期的に振り返りをおこなう。大学教員はオンラインで参加する。 								
教育内容の特色等（新規性・独創性）	<ul style="list-style-type: none"> ・従来実施してきたクリニカルクラークシップよりも長期の実習とすることにより、学生が診療チームの一員として行動し、総合的な臨床能力を獲得することができるようにする。 ・教員及び学生を相互に受け入れし、実習をおこなう体制を構築する ・三大学の教員が共同でLIC参加学生に対してオンライン指導を行うなどの機会を設ける ・以上により、LIC参加学生が他県の状況も理解し、広い視野を獲得する ・LICを実施している期間に、三大学の教員が相互にサイトビジットを行い、それぞれの大学でのLICの継続的な改善に取り組む 								
指導体制	地域医療人材養成拠点病院の医師（指導医、専攻医、研修医）が実習期間を通じて指導する。大学教員は、オンラインで指導する。								
開始時期	令和5年8月								
養成目標人数	対象者 (年次ごとに記載)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	計
	1年次								0
	2年次								0
	3年次								0
	4年次								0
	5年次								0
	6年次		15	15	15	15	15	15	90
	計	0	15	15	15	15	15	15	90

※教育プログラム・コースごとに作成して下さい。
 ※各欄の行の高さは自由に覚えて結構です。横幅は変えないでください。

教育プログラム・コースの概要

大学名等	三重大学								
教育プログラム・コース名	長期滞在型クリニカルクラークシップ								
取組む分野	総合診療、救急・災害医療、感染症								
対象者	医学部医学科学生（地域枠学生及びその他学生）								
対象年次	6年次								
養成すべき人材像	総合診療、救急・災害医療、感染症など地域社会で求められる総合的な診療能力を持ち、地域志向を持つ人材								
科目等詳細	<p><実習型科目></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域枠学生に限定しないが、希望者が多い場合は地域枠学生を優先する。 ・地域社会の医療ニーズに応えられる総合的な臨床能力を身に着けるために、地域医療人材養成拠点医療機関において長期滞在型のクリニカルクラークシップ（LIC；Longitudinal Integrated Clerkship）を実施する。（*地域医療人材養成拠点医療機関は、医師不足地域を対象とする地域枠制度における志願者推薦を担当する病院である） ・臨床実習の選択期間の原則すべての期間（約4か月間）をStudent Doctorとして、外来・救急での初期対応から、入院診療、退院調整等、一人の患者に継続的に関わる内容とする。 ・患者の入退院支援から在宅療養までを担当する多職種協働チームによる活動（情報共有、カンファレンス等）にチームの一員として参加する。 ・院内での実習のみならず院外においても健康増進活動などの地域活動に関わる。 ・地域病院での実習期間中も、総合診療、救急・災害医療、感染症（院内感染対策・地域での公衆衛生活動）などについて、大学からのオンラインでの指導、オンデマンド教材の提供により、教育の効果を高める指導を行う。 ・大学病院と地域医療人材養成拠点病院との遠隔カンファレンス体制を整備し、学生のカンファレンスへの参加を促進する。 ・LIC期間中は、毎週、定期的に大学教員とオンラインでの振り返りをおこなうことで、教育効果を高める。 								
教育内容の特色等（新規性・独創性）	<ul style="list-style-type: none"> ・日本のほとんどの医学部で用いられている臨床実習の形式であるブロック・ローテーション（教育病院の幾つもの専門診療科を一定の期間ごとにローテーションする臨床実習）で得ることが難しい教育効果を目指して、1か月以上の期間、地域病院とその診療地域にあるコミュニティでの実践的な保健医療活動に参加する実習である。 ・長期間にわたって継続的に患者ケアへの関わりを持ち、院外の地域活動に参加することで、より実践的な診療手技や地域包括ケアの実際を経験することができる。 ・長期間のon-the-job-trainingにより、頻度の多い疾患の診療を理解し、地域住民の医療ニーズに応えることができるに強い医師を養成できる。 ・自己省察、プロフェッショナルリズムの涵養に有用である。 ・教員及び学生を相互に受け入れし、実習をおこなう体制を構築する ・三大学の教員が共同でLIC参加学生に対してオンライン指導を行うなどの機会を設ける ・以上により、LIC参加学生が他県の状況も理解し、広い視野を獲得する ・LICを実施している期間に、三大学の教員が相互にサイトビジットを行い、それぞれの大学でのLICの継続的な改善に取り組む 								
指導体制	大学教員および地域医療人材養成拠点医療機関指導医（臨床教授等）								
開始時期	令和5年度								
養成目標人数	対象者 (年次ごとに記載)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	計
	1年次								0
	2年次								0
	3年次								0
	4年次								0
	5年次								0
	6年次		4	4	4	4	4	4	24
	計	0	4	4	4	4	4	4	24

※教育プログラム・コースごとに作成して下さい。
 ※各欄の行の高さは自由に変えて結構です。横幅は変えないでください。

教育プログラム・コースの概要

大学名等	高知大学・和歌山県立医科大学・三重大学								
教育プログラム・コース名	合同オンラインシンポジウム								
取組む分野	総合診療、救急、感染症								
対象者	医学部生（地域枠学生及びその他学生）								
対象年次	1年次～6年次								
養成すべき人材像	地域の現状を理解し、能動的に医師として関わる意欲を身に着ける								
科目等詳細	<p><実習型科目></p> <p>毎年、3月頃、三大学合同でオンラインでのシンポジウムを開催する。開催地は、三大学で持ち回りとし、開催地以外の大学の教員、学生はオンライン参加とするが、各大学の現状報告をおこなう教員、成果を発表する学生は現地参加を推奨する。</p> <p>対象学生は、各大学の地域枠学生、教育プログラム・コースに参加した学生とする。休日等の開催とするため、必修のプログラムとはしないが、積極的な参加を推奨する。また、開催地の高校に医学部進学を希望する学生に参加を募ることとする。</p> <p>教育講演会の実施、各大学の取り組みの現状報告、アクティブラーニングコースの成果発表、意見交換等をおこなう。</p> <p>シンポジウムの様子は活動報告書として取り纏め、他大学、地域医療人材養成拠点病院等県内医療機関にも配布する。また、マスコミへの取材依頼、ウェブサイトによる情報発信に努める。</p>								
教育内容の特色等 (新規性・独創性)	<ul style="list-style-type: none"> ・参加学生は、他県の状況を知り、地域の現状を理解し、将来、医師として勤務する意欲を高めることが期待される ・三大学合同で実施することにより、学生の学びが多様化し、広い視野をもった医療人として育つことが期待される ・体験実習、アクティブラーニングコース、LICという事業全体を学生が理解し、積極的に参加する学生が増加し活性化される 								
指導体制	地域医療人材養成拠点病院の医師（指導医、専攻医、研修医）が実習期間を通じて指導する。大学教員は、オンラインで指導する。								
開始時期	令和4年3月								
養成目標人数	対象者 (年次ごとに記載)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	計
	1年次	30	50	50	50	50	50	50	330
	2年次	30	50	50	50	50	50	50	330
	3年次	30	50	50	50	50	50	50	330
	4年次	30	50	50	50	50	50	50	330
	5年次	30	50	50	50	50	50	50	330
	6年次		20	20	20	20	20	20	120
	計	150	270	270	270	270	270	270	1,770

※教育プログラム・コースごとに作成して下さい。
 ※各欄の行の高さは自由に変えて結構です。横幅は変えないでください。